

歌壇

大下一真選

特選

この夏は塩^{しお}辛^{から}蜻蛉^{とんぼ}みなかったナア一人つぶやく落葉掃きつつ

千駄木 石井 禮子

道端の馬糞を踏めば背伸びると信じし世田谷の一年生なり

千石 菊地 正矩

いつの日か笑い話にするための今のわたしの小さき決意

本駒込 岡本 千晶

入選

花吹雪帽子に受けて下校の見寄り道楽し午後公園

小石川 中野 千鶴子

町会の訃報で知った友は今「千の風」になっていきますか

向丘 高野 伸子

卒寿過ぎ水中スタートバタフライ前世はさかなか我等の仲間

水道 高木 マリ

仏壇に大きなスイカ供えたり目覚めて気付きし母の命日

水道 菅井 茂子

病棟に生まるる命逝く命見守り続け白木蓮咲く

千駄木 上杉 紀世子

雨あがりシーツを干せば雀らのあそびたりしかちきき染みあり

本駒込 唐木 よし子

満月が人間^{ひと}の愚かき嘲笑^{わら}ってる最たるものは戦争^{いくさ}なるらん

小日向 内野 仙也

俳壇

松澤 雅世 選

特選

千ヶツトに余韻や電車あたたかし

本駒込 岡本 千晶

截りたての紙の匂ひや白つつじ

千駄木 仲 綾子

緑蔭の石に座^ぎすれば旅に似て

向丘 丸岡 正児

入選

白躑躅蕾三つ四つバスを待つ

西片 中島 多津子

枇杷の実か月光菩薩御前に

本駒込 関口 けい子

春泥を探して秩父まで行けり

小日向 内野 仙也

絶望と希望の狭間能登の春

音羽 黒坂 進

葉桜を見届け生家とり壊す

湯島 佐々木 昌子

うかうかと過ぎにし春の忘れもの

千石 菊地 正矩

退職の2文字がよぎる下り坂

春日 山田 暉